

2018年度第2四半期 決算説明会資料②

〔2018年度 第2四半期業績〕

－ 2018年11月7日 －

京王電鉄株式会社

I. 2018年度第2四半期の業績



II. 中期3カ年経営計画(2018~2020年度)の進捗



III. 2018年度通期の業績予想



〔参考〕2018年度第2四半期の業績 詳細資料



I. 2018年度第2四半期の業績

1. 連結損益計算書

2. 営業概況

- (1) 鉄道事業の状況
- (2) 流通業の状況
- (3) ホテル業の状況

1. 連結損益計算書

(単位：百万円、%)

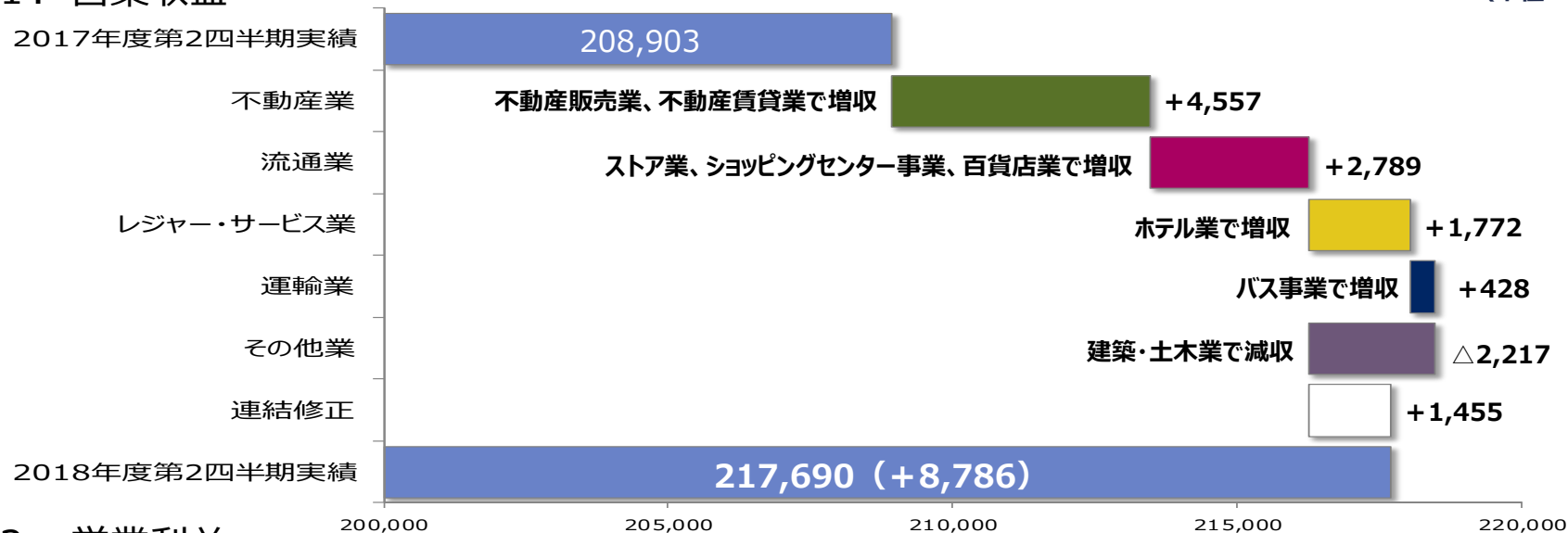
	2017年度 第2四半期 実 績	2018年度 第2四半期 実 績	増 減 (増 減 率)	2018年度 第2四半期予想 (2018.4.27公表)	差 異 (差 異 率)
営 業 収 益	208,903	217,690	8,786 (4.2)	216,000	1,690 (0.8)
営 業 利 益	22,700	23,634	934 (4.1)	24,000	△ 365 (△ 1.5)
経 常 利 益	21,785	23,763	1,978 (9.1)	23,100	663 (2.9)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	14,649	15,124	475 (3.2)	14,900	224 (1.5)
E B I T D A	39,588	41,355	1,766 (4.5)		
減 価 償 却 費	16,686	17,518	832 (5.0)		
資 本 的 支 出	26,004	18,027	△ 7,976 (△ 30.7)		

(注) EBITDAは、営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額により算出している。

1-2. 営業収益・営業利益の変動要因 (対前期比較)

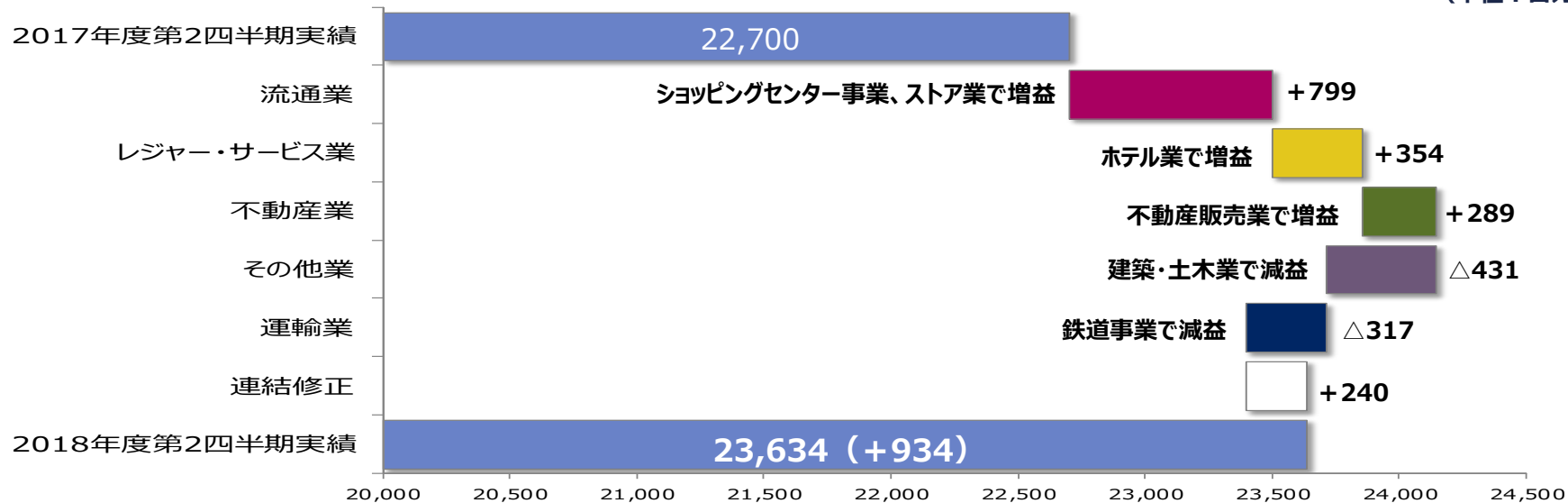
1. 営業収益

(単位：百万円)



2. 営業利益

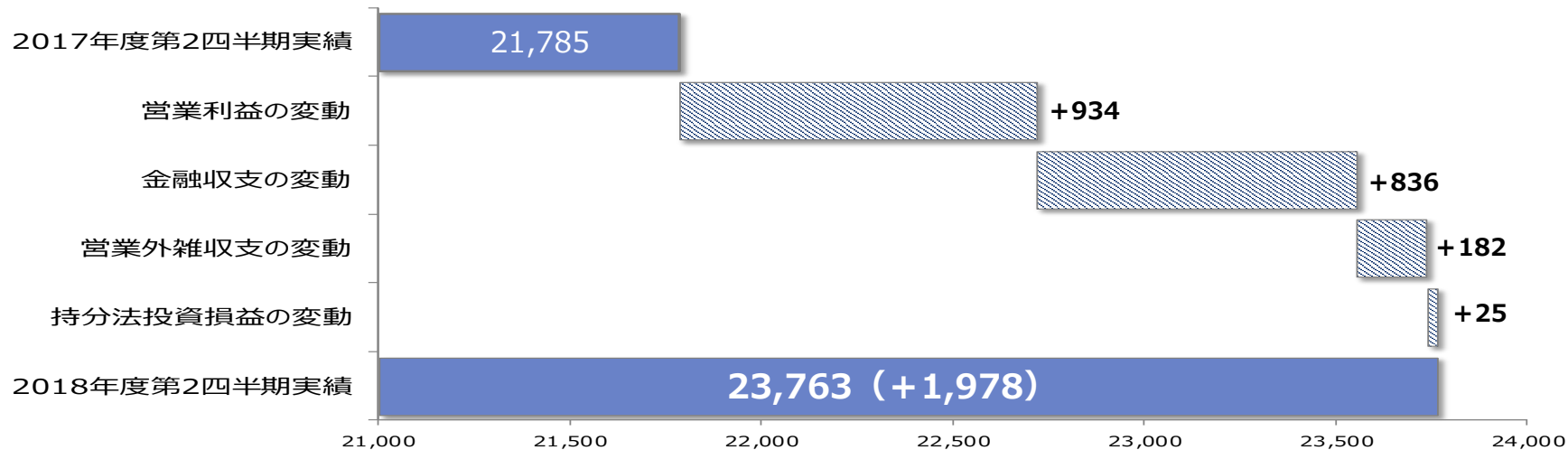
(単位：百万円)



1-3. 経常利益・四半期純利益の変動要因 (対前期比較)

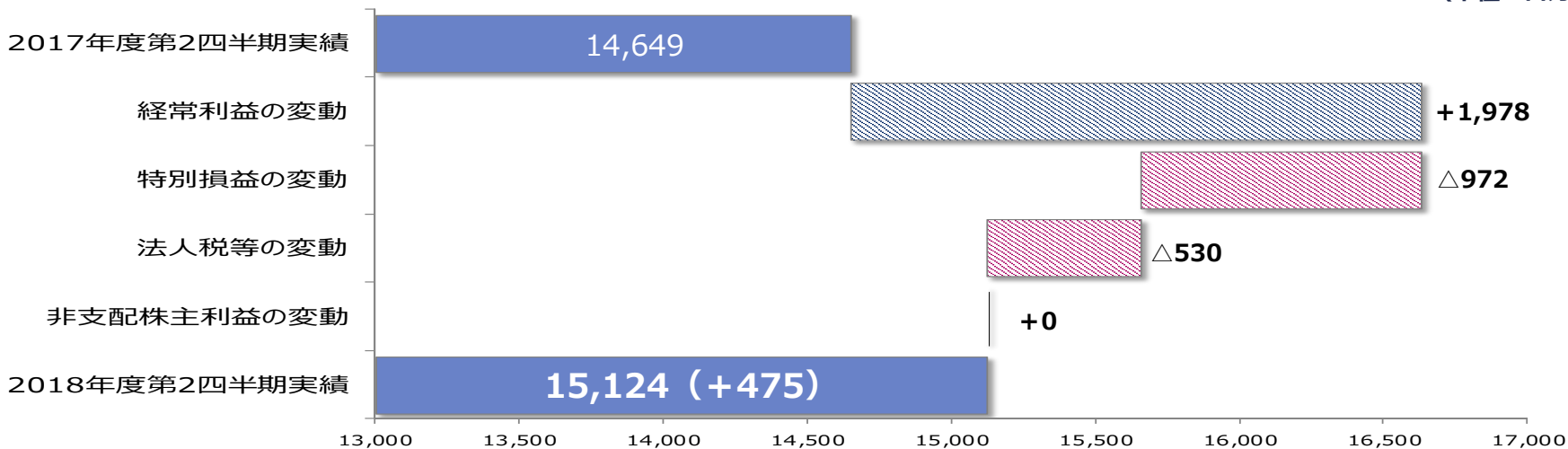
3. 経常利益

(単位：百万円)



4. 親会社株主に帰属する四半期純利益

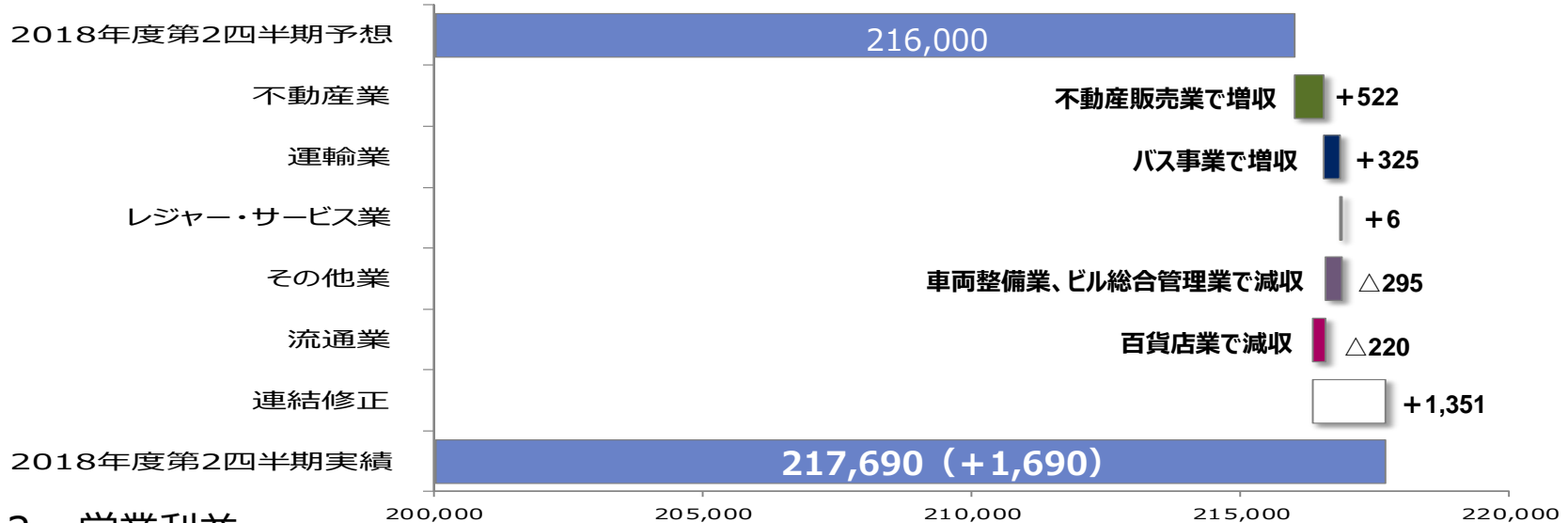
(単位：百万円)



1-4. 営業収益・営業利益の変動要因 (対予想< 4月27日公表ベース>比較)

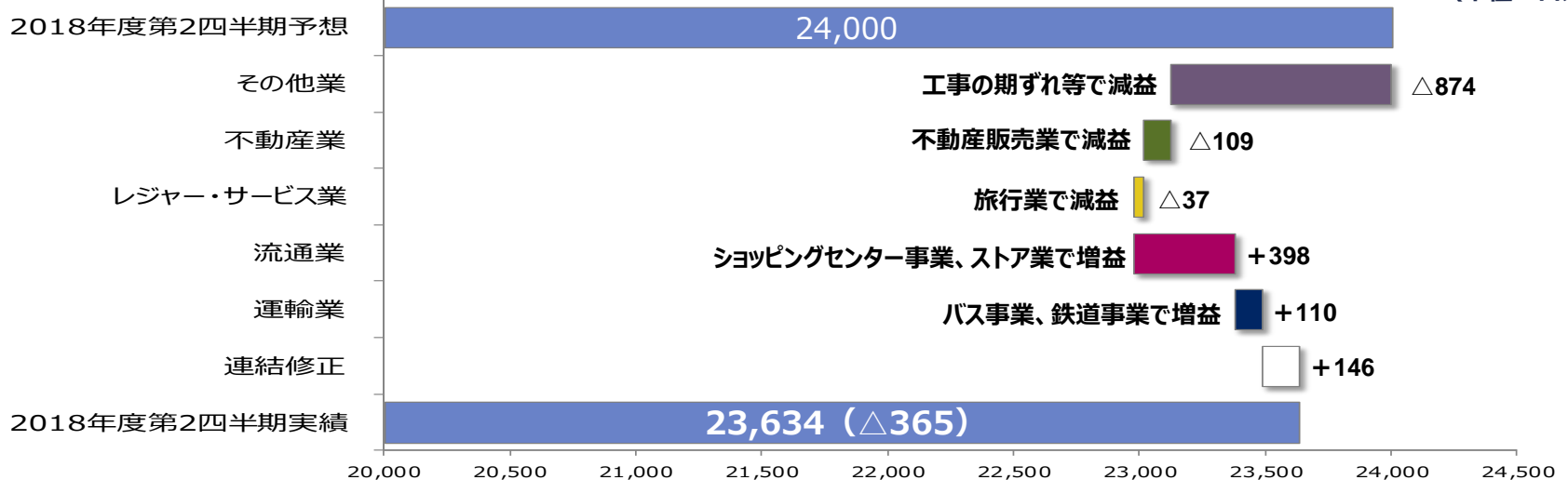
1. 営業収益

(単位：百万円)



2. 営業利益

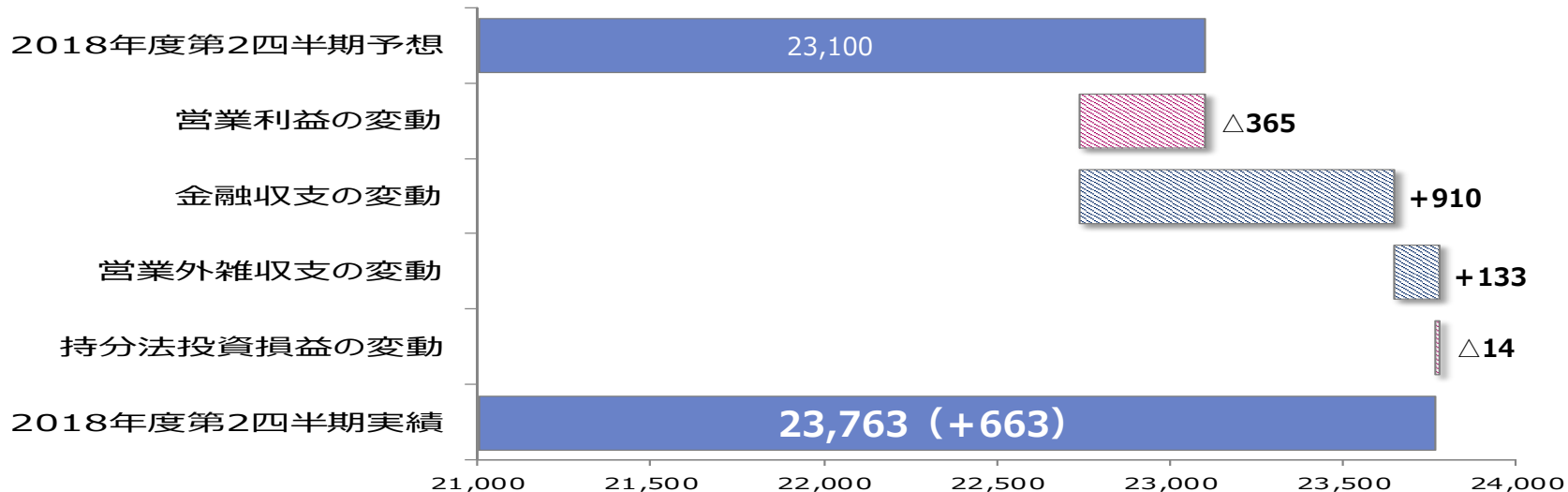
(単位：百万円)



1-5. 経常利益・四半期純利益の変動要因 (対予想< 4月27日公表ベース>比較)

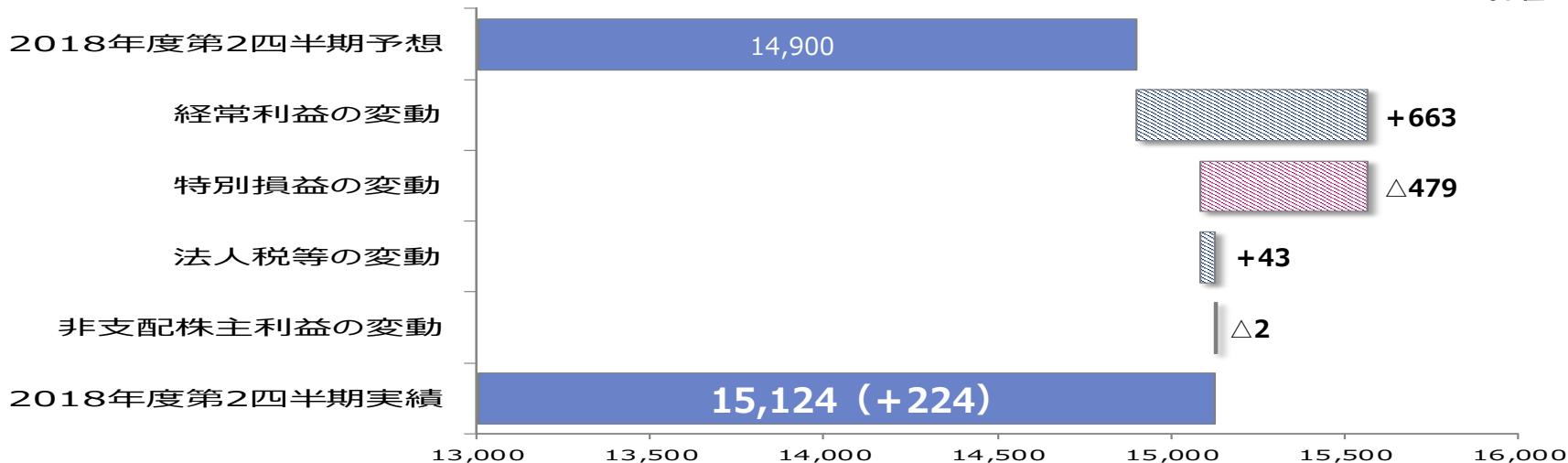
3. 経常利益

(単位：百万円)



4. 親会社株主に帰属する四半期純利益

(単位：百万円)

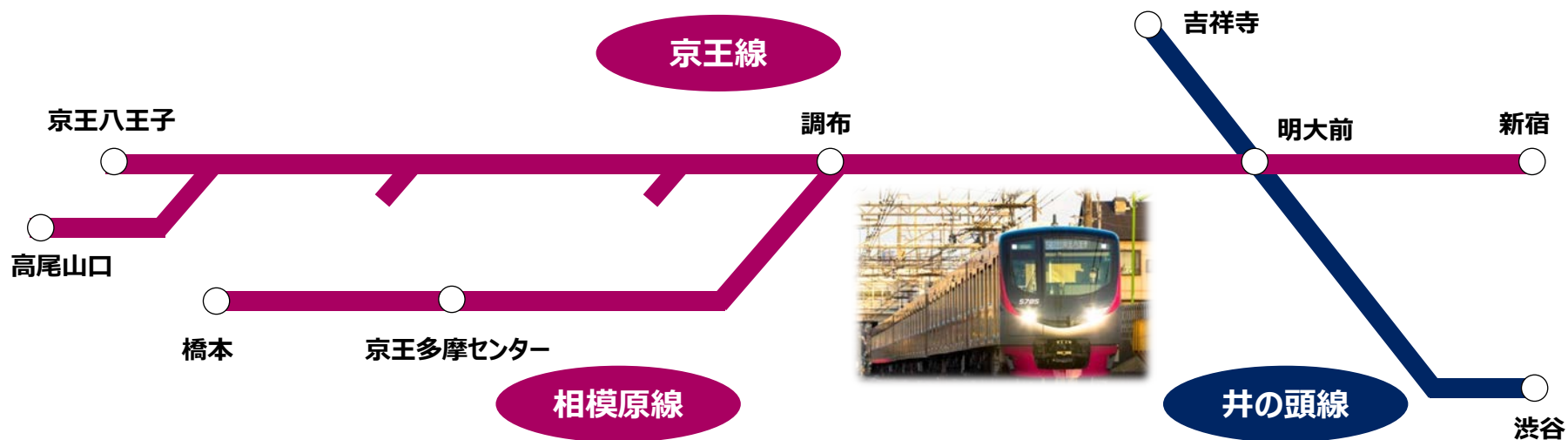


2-1. 鉄道事業の状況

(単位：千人、百万円)

		2018年度 第2四半期	対前年 増減率	備考	対計画 差異率	備考
輸送人員	定期	205,947	+ 1.4%	雇用情勢の改善など	+ 1.1%	
	定期外	136,966	+ 0.1%	沿線施設への来訪者増など	△ 1.0%	
	合計	342,913	+ 0.9%		+ 0.3%	
旅客運輸収入	定期	18,171	+ 0.1%	雇用情勢の改善など	+ 1.4%	
	定期外	23,087	△ 1.4%	加算運賃引下げなど	△ 1.1%	
	合計	41,259	△ 0.7%		+ 0.0%	
鉄道事業 営業収益※		43,191	△ 0.2%		+ 0.0%	

※ 座席指定料金収入を含む



2-2.流通業の状況

流通業 営業収益対前年増減率（累計）

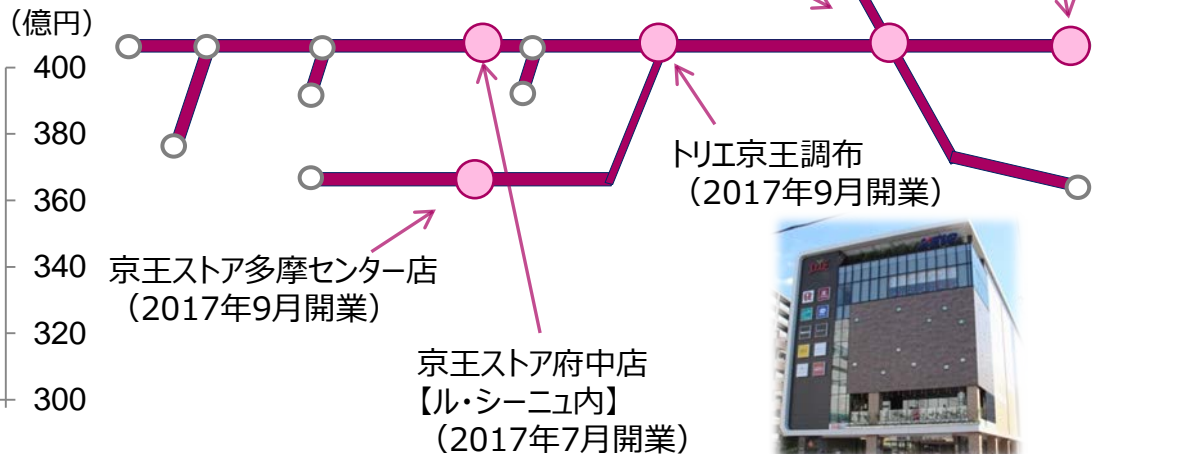
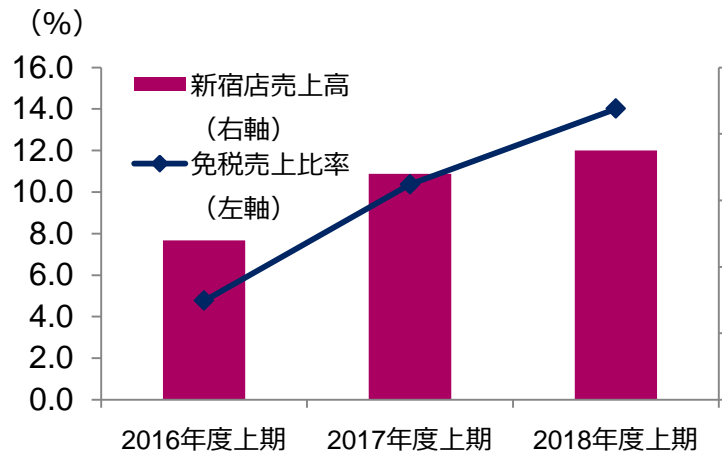
百貨店業		+1.0%
ストア業	スーパーマーケット業	+6.3%
	（うち、既存店※）	+0.3%
	コンビニ・売店業	+6.4%
ストア業合計		+6.0%
ショッピングセンター事業		+14.6%
（うち、既存店※）		△0.3%

※ 既存店は2017年度開業店舗等を除く

百貨店業では、
インバウンドを中心に化粧品売上などが堅調

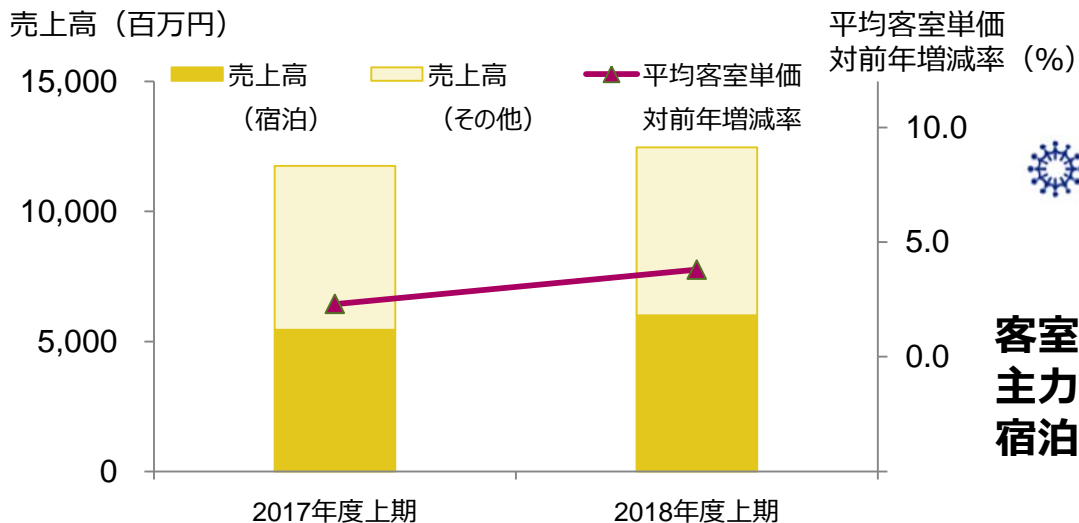
ストア業およびショッピングセンター事業では、
前年度に開業した店舗が好調に推移

京王百貨店（新宿店） 免税売上比率の推移



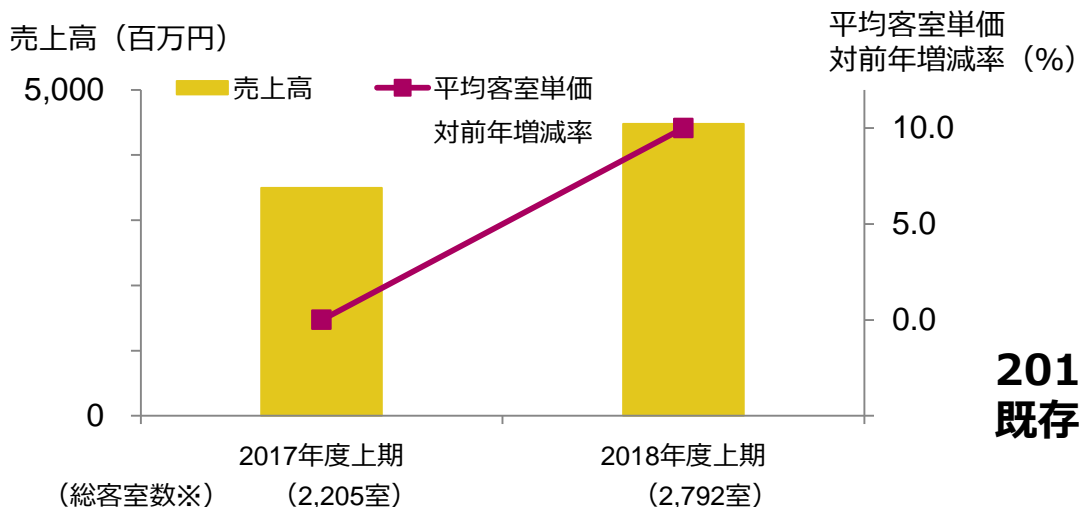
2-3.ホテル業の状況

京王プラザホテル（新宿）の売上高・平均客室単価の推移



**客室単価の向上などにより増収増益
主力のアジアに加え、欧米やオセアニア方面からの
宿泊客も増加**

京王プレッソイン（全店舗）の売上高・平均客室単価の推移



東京駅八重洲
(2017年8月開業)



浜松町
(2017年12月開業)

**2017年度開業店舗が寄与したことに加え、
既存店の堅調な推移により増収増益**

※ 総客室数は各年度の期首時点（4月1日時点）を記載

Ⅱ. 中期3カ年経営計画(2018~2020年度)の進捗

1. 重点施策の取組み状況
 - (1) 既存事業の収益力強化
 - (2) 成長分野の収益基盤化

2. その他の取組み状況

1.重点施策の取組み状況

※2018年5月8日公表 中期3カ年経営計画より再掲

基本
方針

将来の人口減少期や大規模投資期を盤石な体制で迎えるため、
前半中計での戦略投資の収益化による成長を実現する

重
点
施
策

(1) 既存事業の収益力強化

- ・鉄道事業 : 収益力の強化（京王ライナー、ダイヤ改正等）、
京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業の推進
- ・流通業 : 既存商業施設の収益力強化、運営体制の効率化
- ・不動産業 : 販売業の推進、賃貸業の収益力向上
- ・事業の選択と集中 : 営業利益率向上、事業再編

(2) 成長分野の収益基盤化

- ・ホテル事業 : 既存ホテルの収益力強化、京王プレミアホテルの開業
- ・シェア型複合ホテル
事業・民泊事業 : シェア型複合ホテル10店舗体制の実現、民泊事業の収益化
- ・高山エリアにおける
事業展開 : 高山グリーンホテルとの連携、中央高速バスとの連携強化
- ・海外事業(ミャンマー) : 都市型ホテル、サービスアパートメントの開業

1.重点施策の取組み状況

(1) 既存事業の収益力強化

①京王ライナーの利用状況と今後の運行拡大

- 平均乗車率は、平日約8割、土日祝日約5割
- 座席指定料金収入約2億円(2018年度第2四半期累計)

2018年11月に、高尾山口発新宿行の臨時座席指定列車「Mt.TAKAO号」を運行



高尾山口発着や朝間上り方面の運行拡大なども検討し、さらなる利便性向上と増収を目指す



<参考：京王ライナー概要>

座席指定料金：400円

使用車両：5000系 5編成(50両) 1編成あたりの座席数：438席

運行本数：1日10本(新宿発京王八王子行、橋本行各5本)

②京王線(笹塚駅~仙川駅間)連続立体交差事業の推進



- 2017年度末時点で、事業用地の約5割強を取得
- 2018年度は用地取得や設計業務を進めるほか、一部工区において工事に着手

③安全性向上(ホームドア設置)



- 2018年11月より新宿駅4番線のホームドア使用開始
- 2018年12月より渋谷駅1番線のホームドア使用開始

1.重点施策の取組み状況

(1) 既存事業の収益力強化

④ 商業施設のリニューアル

- 「京王府中SC」を2018年11月22日に、一部リニューアルオープン予定
2017年6月からリニューアルを開始し、今回は駅改札階東側のリニューアルを実施



東側入り口リニューアルイメージ



2階東側リニューアルイメージ

「利便性+トレンド感」をコンセプト
駅改札階東側は食物販を中心としたエリアとなる

2018年10月26日に沿線初出店1店舗を含む4店舗がオープン
2018年11月22日に7店舗がオープン予定

- 「仙川駅ビル」と「フレンテ仙川」のリニューアルを2018年8月24日と2018年10月25日に実施
仙川駅ビルは「フレンテ仙川<駅ビル>」に名称変更し、「フレンテ」シリーズとして統一化



仙川駅ビルリニューアルイメージ



FAMIMA STAND

(ファミリーマートでは全国初となる自動販売機型の新コーヒーマシンなどを設置)

「daily & little ~日常使いとほんの少しの...~」をコンセプト

20~30代の女性をターゲットとし、
沿線初出店3店舗を含む全8店舗がオープン

➡ ライフスタイルの多様化や駅立地ニーズに対応することで、競争力強化を推進

1.重点施策の取組み状況

(1) 既存事業の収益力強化

⑤不動産賃貸業における収益力強化・省エネ対策

■リビタによるリノベーション事業の展開

新宿駅直結の築39年オフィスビルをリノベーションし、住まいの機能を持った新しい形のオフィス「12 SHINJUKU」を2018年8月20日にオープン



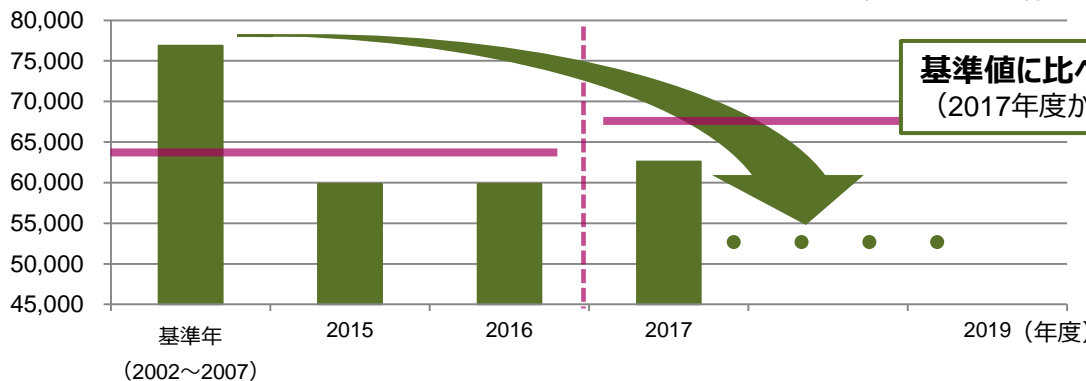
オフィス内に住まいの機能の一部を持たせることで新しい暮らし方を提案

変化するライフスタイルに合致した商品造成

■既存施設における省エネ対策

照明のLED化や省エネルギー機器導入による電気使用量・CO2排出量の削減を推進
2018年度は京王幡ヶ谷ビル、京王新宿追分ビル、京王品川ビルにて省エネ対策工事を実施

(t-CO2) 【参考】大規模ビル9物件のCO2排出量削減実績と目標 (東京都環境確保条例の削減義務 第2計画期間)



基準値に比べ18%削減
(2017年度からキラリナ京王吉祥寺を追加)

※京王プラザホテル(新宿)、京王プラザホテル八王子、京王プラザホテル多摩、京王品川ビル、京王八王子明神町ビル、京王百貨店新宿ビル、京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター、京王八王子ショッピングセンター、2017年度からキラリナ京王吉祥寺を追加

※「基準値」とは、2002~2007年度のうち任意の連続した3カ年におけるCO2排出量の平均値をいいます。

1. 重点施策の取組み状況

(2) 成長分野の収益基盤化

①京王プレリアホテル（宿泊特化型アッパーミドルホテル）の開業

- 新業態ホテルの1号店「京王プレリアホテル 京都烏丸五条」を2018年11月27日に開業予定

京王プレリアホテル 京都烏丸五条



外観

開業日：2018年11月27日（予定）
階数：地上10階
客室数：305室
客室構成：ダブル89室、ツイン207室
トリプル9室
付帯施設：レストラン、大浴場等
総事業費：128億円



客室（イメージ）

訪日外国人を含む観光・レジャーのお客様に加え、ビジネス利用も想定

ツインルームを主体として、ダブルルーム、トリプルルームなど幅広い部屋タイプで構成

- 2号店「京王プレリアホテル 札幌（仮称）」は2019年夏に開業予定

京王プレリアホテル 札幌（仮称）



外観（イメージ）

開業時期：2019年夏（予定）
階数：地下1階 地上17階
客室数：359室（予定）
客室構成：ダブル42室
ツイン317室（うちトリプル可120室）
付帯施設：レストラン、大浴場、駐車場等
総事業費：103億円

・JR札幌駅北口徒歩3分



・市営地下鉄烏丸線「五条駅」
徒歩4分

・市営地下鉄烏丸線「四条駅」
徒歩5分

・阪急京都線「烏丸駅」
徒歩7分

1.重点施策の取組み状況

(2) 成長分野の収益基盤化

②高山エリアにおける事業展開

■高山グリーンホテル 新館の建設 (2020年春に新館開業予定)



新館 施設概要

階数：地上7階
客室数：101室
付帯施設：宴会場、レストラン等

高山駅徒歩6分



客室からは北アルプスや高山市内等の眺望を望む



高山のリーディングホテルに相応しい大宴会場



**今後も地域のシンボルとなるホテルを目指し、
将来的な資本提携を前提に連携を強化・インバウンド戦略を推進**

1.重点施策の取組み状況

(2) 成長分野の収益基盤化

③ 既存ホテル収益力強化

■ 京王プラザホテル（新宿） 最上級クラブフロア「プレミアグラン」増室



<改装工事>
 総事業費：7億円
 工期：2018年7月～2018年12月

<プレミアグラン料金>
 1名様料金（1室2名様、サービス料・税金込）
 クラブルーム プレミアグラン 22,500円～
 プレミアグランスイート 45,000円～

2018年12月15日に**プレミアグラン増室（111室体制から167室体制）**
 高単価・高稼働販売を実現し、最大限の改装効果を目指す

■ 京王プラザホテル（新宿） スーパーbuffet「グラスコート」改装



2019年1月24日にリニューアルオープン予定
 188席へ席数を増やすとともに、ライブ演出のスポットを增強

<グラスコート 概要>
 場所：京王プラザホテル（新宿）2階
 席数：181席（現行）
 年商：10億円



**商品力をさらに強化し、
 欧米豪の顧客、新興国の富裕層の獲得を実現**

2.その他の取組み状況

郊外型コワーキングスペース（多摩センター）

- 2018年10月17日に、サテライトオフィス「KEIO BIZ PLAZA」を開業
- ベッドタウンである多摩センターに開業することで、職住近接を実現する場を提供し、柔軟な働き方の実現に貢献
- 京王多摩センター駅近くの京王相模原線高架下に「**企業主導型保育所**」を開設予定（2019年6月（予定））



沿線における「働く・活躍・交流する空間」を実現



KEIO
BIZ
PLAZA

場所：京王プラザホテル多摩2階
（京王多摩センター駅徒歩3分）



施設概要

面積：264.48㎡（80.1坪）

席数：93席（カウンター席11席、テーブル席46席、ソファ席13席、ブース席9席、ミーティングルーム3室14席）

設備：ICカード式入退室管理、Wi-Fi、複合機、シュレッダー、プロジェクター、書棚、コミュニケーションボード

月極ロッカー、郵便ポスト、コーヒーサーバー

営業時間：8:00～21:00

Ⅲ. 2018年度通期の業績予想

業績予想の修正は行っておりません

[参考]連結損益計算書（2018年4月27日公表数値）

〔参考〕連結損益計算書（2018年4月27日公表数値）

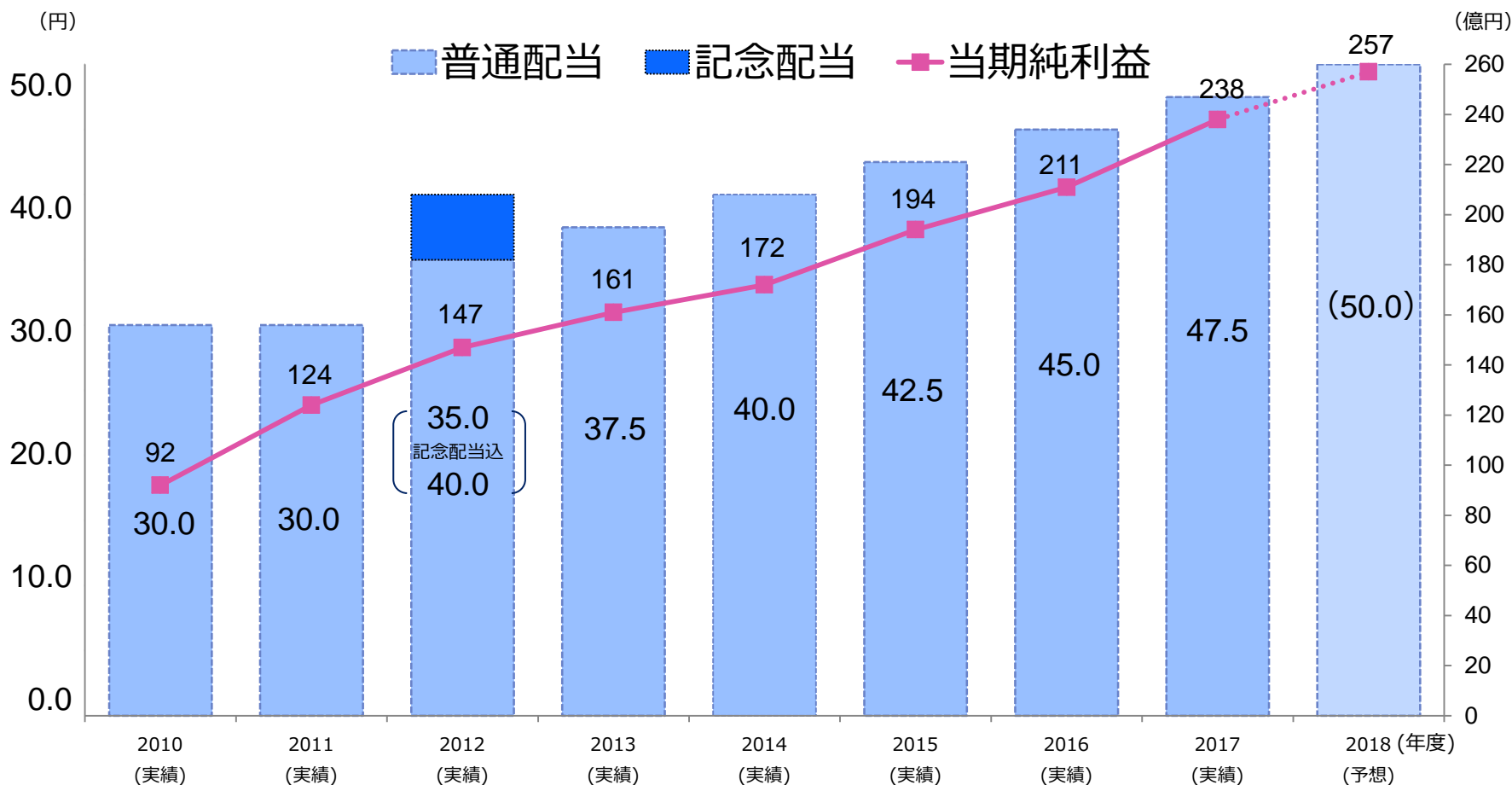
（単位：億円、％）

	2017年度 実績	2018年度 予想	増減（増減率）
営業収益	4,346	4,450	103（ 2.4）
営業利益	385	395	9（ 2.5）
親会社株主に帰属する 当期純利益	238	257	18（ 7.5）
EBITDA	748	765	16（ 2.3）
（減価償却費）	（358）	（364）	（6）（ 1.7）
営業利益率	8.9	8.9	—
ROA	4.1	4.3	0.2P
資本的支出	726	713	△ 13（ △ 1.8）

（注）EBITDAは、営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額 により算出している。

連結当期純利益および配当の推移

※2018年5月8日公表 中期3カ年経営計画より再掲



**従来通り、連結配当性向30%を目安とし、
将来の大規模投資等も含め様々な観点から還元を行う**

※2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施したため、各年度の配当金額は株式併合後の基準に置き換えている。



KEIO

The logo for KEIO is displayed in a bold, italicized sans-serif font. The letter 'K' is dark blue with a pink triangular shape on its upper right side. The letters 'E', 'I', and 'O' are solid dark blue. The logo is centered on a white background, with a dark blue horizontal bar at the top and a pink horizontal bar at the bottom.

〔参考〕2018年度第2四半期の業績 詳細資料

1. セグメント情報
2. 連結貸借対照表
3. 連結キャッシュ・フロー計算書

1.セグメント情報（構成状況）

連結会社

2018年9月末現在 49社

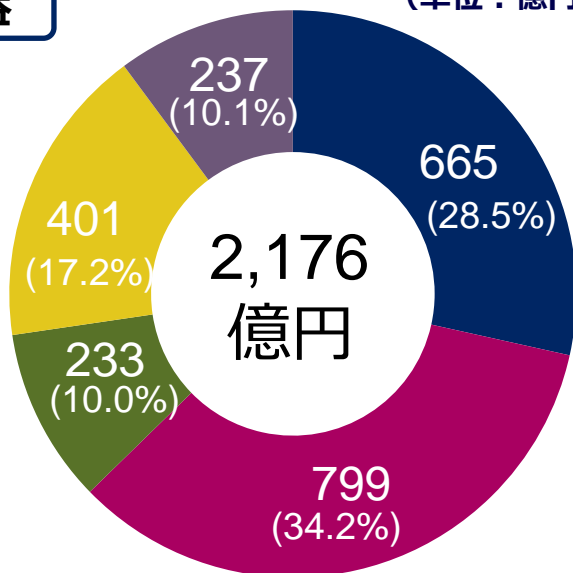
（京王電鉄、京王重機整備は複数の事業セグメントに計上）

運輸業	流通業	不動産業	レジャー・サービス業	その他業
京王電鉄 京王電鉄バス 京王自動車 他 14社	京王百貨店 京王ストア 京王書籍販売 他 5社	京王電鉄 京王不動産 リビタ 他 3社	京王プラザホテル 京王観光 京王エージェンシー 他 6社	京王設備サービス 京王重機整備 京王建設 他 9社

2018年度第2四半期

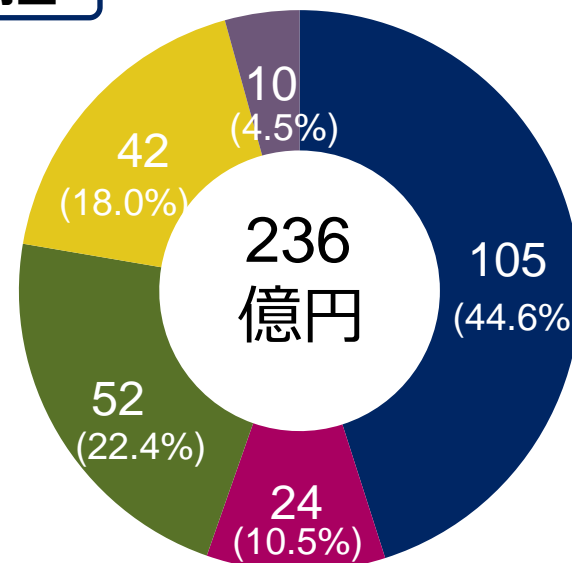
営業収益

（単位：億円）



営業利益

（単位：億円）



（注）セグメントの数値は、セグメント間取引を含む金額、構成比率である。

1.セグメント情報（運輸業①）

(単位：百万円、%)

	2017年度 第2四半期 実績	2018年度 第2四半期 実績	増減 (増減率)	増 要	減 因	2018年度 第2四半期 予想 <small>(2018.4.27公表ベース)</small>	差異 (差異率)
(鉄道事業)	43,268	43,191	△ 77 (△ 0.2)	次ページ 参照		43,172	18 (0.0)
(バス事業)	18,116	18,582	466 (2.6)	路線、高速 で増収		18,265	317 (1.7)
(タクシー業)	6,377	6,441	64 (1.0)			6,409	31 (0.5)
(その他)	1,282	1,298	16 (1.3)			1,279	19 (1.5)
(消去)	△ 2,877	△ 2,919	△ 41 -			△ 2,856	△ 62 -
営業収益	66,166	66,595	428 (0.6)			66,270	325 (0.5)
(鉄道事業)	8,401	8,134	△ 267 (△ 3.2)			8,014	120 (1.5)
(バス事業)	2,067	2,074	6 (0.3)			1,654	419 (25.4)
営業利益	10,834	10,516	△ 317 (△ 2.9)			10,406	110 (1.1)
営業利益率	16.4	15.8	△ 0.6P -			15.7	0.1P -
減価償却費	10,768	11,240	471 (4.4)				
資本的支出	8,588	6,323	△ 2,265 (△ 26.4)				
E B I T D A	21,603	21,757	153 (0.7)				

1.セグメント情報（運輸業②〔鉄道事業運輸成績〕）

(単位：千人、百万円、%)

		2017年度 第2四半期実績	2018年度 第2四半期実績	増減（増減率）		増減要因
輸 送 人 員	定 期	203,024	205,947	2,923 (1.4)		雇用情勢の改善など
	(通 勤)	152,336	155,368	3,032 (2.0)		
	(通 学)	50,688	50,579	△	109 (△ 0.2)	
	定 期 外	136,822	136,966	144 (0.1)		沿線施設への来訪者増など
	合 計	339,846	342,913	3,067 (0.9)		
旅 客 運 輸 収 入	定 期	18,152	18,171	19 (0.1)		雇用情勢の改善など
	(通 勤)	16,163	16,231	68 (0.4)		
	(通 学)	1,989	1,940	△	49 (△ 2.5)	
	定 期 外	23,414	23,087	△	327 (△ 1.4)	加算運賃引下げなど
	合 計	41,567	41,259	△	308 (△ 0.7)	

- 輸送人員は、雇用情勢の改善や沿線人口の増加などにより増加
- 旅客運輸収入は、相模原線の加算運賃引下げ等により減収

1.セグメント情報（流通業）

(単位：百万円、%)

	2017年度 第2四半期 実績	2018年度 第2四半期 実績	増減（増減率）	増 要	減 因	2018年度 第2四半期 予想 <small>(2018.4.27公表ベース)</small>	差異（差異率）
（百貨店業）	41,647	42,077	430（1.0）			42,787	△ 709（△ 1.7）
（ストア業）	23,591	25,003	1,412（6.0）	前年度開業店 舗の寄与など		24,937	65（0.3）
（書籍販売業）	3,207	3,119	△ 88（△ 2.8）			2,969	149（5.0）
（ショッピングセンター事業）	6,283	7,201	918（14.6）	前年度開業店 舗の寄与など		7,107	94（1.3）
（その他）	5,594	5,798	204（3.7）			5,865	△ 66（△ 1.1）
（消去）	△ 3,180	△ 3,267	△ 87			△ 3,513	245
営業収益	77,143	79,933	2,789（3.6）			80,154	△ 220（△ 0.3）
（百貨店業）	262	100	△ 161（△ 61.6）			206	△ 105（△ 51.2）
（ストア業）	134	450	316（235.5）			200	249（124.4）
営業利益	1,678	2,477	799（47.6）			2,079	398（19.1）
営業利益率	2.2	3.1	0.9P			2.6	0.5P
減価償却費	1,772	2,010	237（13.4）				
資本的支出	9,592	685	△ 8,906（△ 92.9）				
E B I T D A	3,451	4,488	1,037（30.1）				

1.セグメント情報 (不動産業)

(単位：百万円、%)

	2017年度 第2四半期 実績	2018年度 第2四半期 実績	増減 (増減率)	増 減 因	2018年度 第2四半期 予想 (2018.4.27公表ベース)	差異 (差異率)
(不動産賃貸業)	17,260	17,414	153 (0.9)	賃貸物件の増 など	17,497	△ 83 (△ 0.5)
(不動産販売業)	4,896	9,150	4,254 (86.9)	投資用マンシ ョン販売戸数増	8,280	869 (10.5)
(その他)	958	1,190	231 (24.2)		1,235	△ 45 (△ 3.7)
(消去)	△ 4,293	△ 4,376	△ 82 -		△ 4,158	△ 218 -
営業収益	18,821	23,378	4,557 (24.2)		22,856	522 (2.3)
(不動産賃貸業)	5,241	5,251	10 (0.2)		4,899	352 (7.2)
(不動産販売業)	229	430	200 (87.4)		567	△ 137 (△ 24.2)
営業利益	4,999	5,288	289 (5.8)		5,398	△ 109 (△ 2.0)
営業利益率	26.6	22.6	△ 4.0P -		23.6	△ 1.0P -
減価償却費	2,215	2,164	△ 50 (△ 2.3)			
資本的支出	2,552	1,476	△ 1,075 (△ 42.2)			
E B I T D A	7,417	7,656	238 (3.2)			

不動産販売業 販売戸数 (単位：戸)			
物件別 / 年度	2017年度 第2四半期 実績	2018年度 第2四半期 実績	増 減
リノベーション物件	67	60	△ 7
投資用マンション	2	54	52

1.セグメント情報（レジャー・サービス業）

(単位：百万円、%)

	2017年度 第2四半期 実績	2018年度 第2四半期 実績	増減（増減率）	増減要因	2018年度 第2四半期 予想 (2018.4.27公表ベース)	差異（差異率）
（ホテル業）	24,416	26,421	2,005（8.2）	前年度開業店舗 の寄与、客室単価 向上など	25,805	616（2.4）
（旅行業）	9,898	9,944	45（0.5）		10,461	△ 517（△ 4.9）
（広告代理業）	5,271	5,331	60（1.1）		5,462	△ 130（△ 2.4）
（その他）	3,476	3,515	38（1.1）		3,562	△ 47（△ 1.3）
（消去）	△ 4,716	△ 5,093	△ 377	-	△ 5,180	86
営業収益	38,346	40,118	1,772（4.6）		40,112	6（0.0）
（ホテル業）	3,141	3,798	656（20.9）		3,344	454（13.6）
営業利益	3,891	4,245	354（9.1）		4,283	△ 37（△ 0.9）
営業利益率	10.1	10.6	0.5P	-	10.7	△ 0.1P
減価償却費	1,895	2,072	176（9.3）			
資本的支出	3,409	7,526	4,117（120.8）			
E B I T D A	5,787	6,317	530（9.2）			

- 「京王プレッソイン」で前年度に開業した2店舗（東京駅八重洲、浜松町）が寄与したことなどにより増収
- 「京王プラザホテル」で客室単価の向上などにより増収

1.セグメント情報（その他業）

（単位：百万円、％）

	2017年度 第2四半期 実績	2018年度 第2四半期 実績	増減（増減率）		増減 要因	2018年度 第2四半期 予想 <small>（2018.4.27公表ベース）</small>	差異（差異率）	
（ビル総合管理業）	10,937	10,827	△	110（△ 1.0）		11,062	△	235（△ 2.1）
（車両整備業）	4,261	4,065	△	195（△ 4.6）		4,324	△	258（△ 6.0）
（建築・土木業）	8,290	5,704	△	2,586（△ 31.2）	完成工事 高の減少	5,647		56（△ 1.0）
（その他）	3,663	3,761		97（△ 2.7）		4,029	△	267（△ 6.7）
（消去）	△ 1,150	△ 572		578		△ 982		410
営業収益	26,002	23,785	△	2,217（△ 8.5）		24,081	△	295（△ 1.2）
営業利益	1,503	1,071	△	431（△ 28.7）		1,946	△	874（△ 44.9）
営業利益率	5.8	4.5	△	1.3P		8.1	△	3.6P
減価償却費	163	178		14（△ 9.0）				
資本的支出	314	144	△	169（△ 54.0）				
E B I T D A	1,666	1,249	△	417（△ 25.0）				

2.連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2017年度 実績	2018年度 第2四半期 実績	増減	増減要因
総資産	889,135	884,856	△ 4,279	手元資金の減少など
負債	536,893	519,008	△ 17,885	工事代金の支払いなど
純資産	352,241	365,847	13,605	親会社株主に帰属する 四半期純利益の計上など
負債及び純資産	889,135	884,856	△ 4,279	
有利子負債	352,181	348,069	△ 4,111	

(注) 有利子負債は、借入金＋社債により算出している。

3.連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2017年度 第2四半期 実績	2018年度 第2四半期 実績	増減	増減要因
営業活動 キャッシュ・フロー	32,812	36,126	3,314	
投資活動 キャッシュ・フロー	△ 42,078	△ 29,512	12,565	前期に定期預金の預入など
財務活動 キャッシュ・フロー	16,875	△ 7,391	△ 24,266	前期に社債の発行など
現金及び 現金同等物の 期末残高	63,676	64,522	846	

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。